

淡路の魅力発信分科会

代表 沖田 和良

情報発信に必要なSNSを活用する勉強会として、分科会で撮影した淡路島の食材である淡路島3年とらふぐの料理の写真や動画の素材をもとに、写真の撮り方や動画編集のポイントを勉強し、委員のスキルアップを行いました。

淡路地域ビジョン委員が集まる全体会では、その日の全体会の風景や展示物等を撮影した写真を使用し、手持ちのタブレットで簡単に動画が作成できることを発表しました。動画編集ソフトを使い、動画編集した後にYou Tubeへ投稿する一連の流れを見ていただき、今後、You TubeやFacebookを使った情報発信する際のスキルアップを行うことができました。



▲ SNSを活用の勉強会

教育、産業、食・食材をつなぐ創生活動分科会

代表 楓 るみ子

私たちの分科会の愛称は「アクティブ淡路島」です。淡路島の産業、農業・漁業・酪農・畜産業が抱えている問題を工業の力で解決できないかと考えてアクションを起こしました。

初年度は、農業を取り巻く問題に取り組みました。農業従事者から、6次産業や市場開拓問題等の講習を受け、産業ロボットやパワーアシストを視察・体験しました。

2年目は、45度の傾斜をリモコン操作で除草できる草刈り機(ロボット)を導入し、その使い勝手を体感できる地区として、農業経営のために移住した若者と6次産業も営んでいる営農組合をモデル地区に選定しました。

また、子供のころから産業や工業に目を向けて、発想力を養っていただくことを目的に、淡路島内の小・中学生を対象に、「プログラミング教室」を7回開催しました。これにより、子どもたちの起業に対する感心を深めるきっかけづくりに取り組むことができました。



▲ 草刈り機(ロボット)



▲ 「プログラミング教室」

全体の活動

淡路くにうみ夢フォーラムの開催

平成29年10月21日(土)に、「兵庫2030年の展望～淡路地域の夢を語ろう～」をテーマに、淡路市しづのおだまき館において「淡路くにうみ夢フォーラム」を開催しました。当日は、みやまスマートエネルギー(株)の代表取締役社長の磯部達氏から「地域電力が開く新しい地域の未来～みやまの挑戦と淡路島の可能性～」について」と題した講演の後、78名の参加者が、各分科会のテーマに分かれて討議しました。

各グループからは、2030年の将来像を実現するために、災害弱者のサポート、居場所づくり、放置竹林の整備、就農支援等の具体方策について発表がありました。



▲ 講演の様子



▲ グループでの意見交換

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索

発行／淡路地域ビジョン委員会

事務局 兵庫県淡路県民局県民交流室未来島推進課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 TEL.0799-26-2125 FAX.0799-24-6934
E-mail awajikem@pref.hyogo.lg.jp



29淡路◎ 2-015A4

活動の記録

第8期淡路地域ビジョン委員会

平成29年度

淡路地域ビジョン委員会では、「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

4つの実践目標

実践目標1

誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり

実践目標2

個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

実践目標3

自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

実践目標4

経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

写真提供：(一社)淡路島観光協会所蔵

「第8期淡路地域ビジョン委員会活動を終えて」

淡路地域ビジョン委員会では「環境立島あわじ」を目標に掲げ、淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

私たち第8期淡路地域ビジョン委員会は、平成28年4月に活動をスタートし、2年間にわたり経済、社会、環境等の各分野で活動を行ってきました。分科会活動では、セミナーや講座の開催、イベントでのブース出展、小学校に出向いての普及啓発活動等を実施し、淡路地域ビジョン実現の一助となれるよう精進して参りました。

淡路地域ビジョン委員会の活動を通じて、持続可能な島を実現するためには、淡路島の地域資源の魅力をもっと再認識するとともに、それらを有効的に活用していくことが地域ビジョンの実現につながると実感しました。



第8期淡路地域ビジョン委員会 委員長 狩野 揮史

防災分科会

代表 原 竜也

阪神淡路大震災の発生から22年が経過し、災害の記憶が風化していく中で防災活動を続けてきました。淡路島内3市で実施する「全島一斉防災訓練」においては、少ないメンバーが3市に振り分けられ、たった1人でブースを担当したこともありました。

これまで地域ビジョン活動を続けてきたからこそ、洲本市由良小学校で「防災マップづくり」や「認知症サポーター養成講座」を開催することができました。由良地区では、日中の時間帯は、子どもとお年寄りだけの環境になり、子どもたちは防災の担い手になります。「生きている」からこそ活動が続けられます。「命を守る」ためには、今後も淡路島で「楽しく学ぶ防災」に取り組み、「生命(いのち)つながる持続する環境の島」を目指す防災活動を続けていきます。

▲全島一斉防災訓練での指導の様子



▲第5回全体会での成果発表

福祉分科会

代表 安居 道彦

私たち福祉分科会は、「認知症をささえる家族の会・にじの会」の活動を通じて、認知症の啓発や、年齢や立場を問わず誰もが気軽に集えるサロンやカフェなどの「居場所づくり」に取り組んでいます。

11月には「介護者のつどい IN 淡路島」を開催し、「認知症患者さんを支える方たちへ」と題した講演会や、各医療機関の医師と介護者を交えた意見交換会を行い、医療と介護がより近づくことができたイベントとなりました。また当日参加された方々や関係者には、応援の印として認知症サポーターのカラーであるオレンジ色の名入れタオルを配付しました。これからもいろんな出合いを大切に、地域活動に取り組んでまいります。



▲「介護者のつどい IN 淡路島」



▲名入れタオルとオレンジリング

地域づくり淡路分科会

代表 岩藤 紀子

淡路島でつくられた電力を地元で消費する地産地消型の経済を目指すことが「あわじ環境未来島構想」の推進につながると考え、住民福祉の向上に資する地域新電力会社設立実現の可能性について協議しました。また、明石で開催された「地域のエネルギーをを活かす明石のまちづくり講演会」へ参加し、みやまスマートエネルギー(株)磯部社長の講演を聞かせていただいたことはとても参考になりました。講演会終了後、主催者のエネルギー地産地消あかし地域協議会の皆様と交流を図りました。



▲「地域のエネルギーを活かす明石のまちづくり講演会」の様子



まちづくり淡路分科会

代表 田村 伊久男

まちづくり淡路分科会では、日本グローバルアカデミーの留学生を対象に、淡路島の地域活性化の現場を視察・体験していただくセミナーを開催しました。そばカフェ生田村では、地域ぐるみで栽培したそばのそば打ち体験を、灘水仙の里では、地域交流ハウスの視察を体験していただくとともに、日本と母国とのまちづくりや文化の違い等について意見交換を交わしました。

また、その日に感じた淡路島の魅力をSNSを活用し、母国等へ情報発信していただきました。



▲そば打ち体験の様子



▲地域交流ハウスの視察

分科会の活動

竹林分科会

代表 西野 菊高

「あわじ島竹取物語」を旗印とする放置竹林の整備、伐採した竹材の利活用方法を一般住民へPRするため、各種イベントにおいて竹林の分布状態のパネル、竹細工、竹の玩具等を展示するとともに竹細工の作成を実演してきました。

今年度からは、竹ざる等を製作する講座を開いて欲しいとの要望を受け、新たに竹ひご作りの講座に2回取り組みました。ホームセンター等で売っている竹製品は、中国製等が多く、放置竹林整備のためには、孟宗竹に加えて真竹を伐採し、利活用する必要があります。竹ひご作りが進めば、竹チップ化に加工した大型竹チップボイラーへの供給のほか、真竹の利用も増えて放置竹林の整備も進み、竹ざるの製作、凧等への利用が増え、竹林の整備面積の拡大に役立つことを情報発信しました。



▲竹細工のブース出展



▲竹ひごづくり講座

渦潮世界遺産登録推進分科会

代表 山口 平

私たち渦潮世界遺産登録推進分科会は、2年間で島内の小学校11校・約400名の淡路島の未来を担う子供たちを対象に、「鳴門海峡の渦潮学習」出前教室を実施しました。

渦潮の世界遺産登録に向けた活動として、自然の恵み、自然の大切さを世界の人々に発信していくことを子どもたちと共有することができました。



▲「鳴門海峡の渦潮学習」出前講座



▲クイズ形式の紙芝居

自然環境・エネルギー分科会

代表 森崎 義彦

淡路島に生育している特定外来種の一つである「ナルトサワギク」をテーマに掲げ、洲本温泉沿い法面の駆除や実験場を設けて駆除方法の模索に取り組んだところ、その模様がサンテレビで放映されるなど、大きな反響を呼びました。

また、この啓蒙活動は、淡路県民局及び島内3市の環境課にご協力いただき、ナルトサワギク防除について「全島一斉清掃」のポスターに記載していただきました。



▲ナルトサワギク駆除活動

さらに、ナルトサワギク分布アンケート調査を実施したところ、島内の小・中学校、高校、大学、農協、民間企業、行政機関、各種団体等から2,727人もの皆様のご協力をいただき、「ナルトサワギクアンケート調査報告書」として冊子にまとめることができました。

この2年間の活動を通して、紆余曲折もありましたが、達成感も味わうことができました。



▲ナルトサワギクアンケート調査報告書